

六 きょう ぞう 経蔵 (重要文化財)

本堂の正面左手(西側)にある経蔵には、仏教經典のすべてを網羅した一切経が納められています。経蔵内部の中央には、輪蔵(りんぞう)と呼ばれる独楽(こま)のような形をした書庫があります。この輪蔵を回すことによって一切経を読んだのと同じ功德が得られるといわれています。経蔵内には、**釈迦如来像、如意輪観音像、伝教大師像、慈覚大師像**のほか、輪蔵を考案した**傳大士(ふだいし)像**が安置されています。



七 日本忠霊殿 善光寺史料館

本堂北西には、戊辰(ぼしん)戦争から第二次世界大戦までの戦争で亡くなった240万余柱の英霊を祀る日本忠霊殿があります。この建物には、善光寺史料館が併設されており、庶民的な善光寺信仰のすがたを伝える奉納絵馬や本堂などに安置されていた仏像などを拝観することができます。



ロビーでは、七年に一度の盛儀「善光寺御開帳」などのビデオ上映を随時行っています。

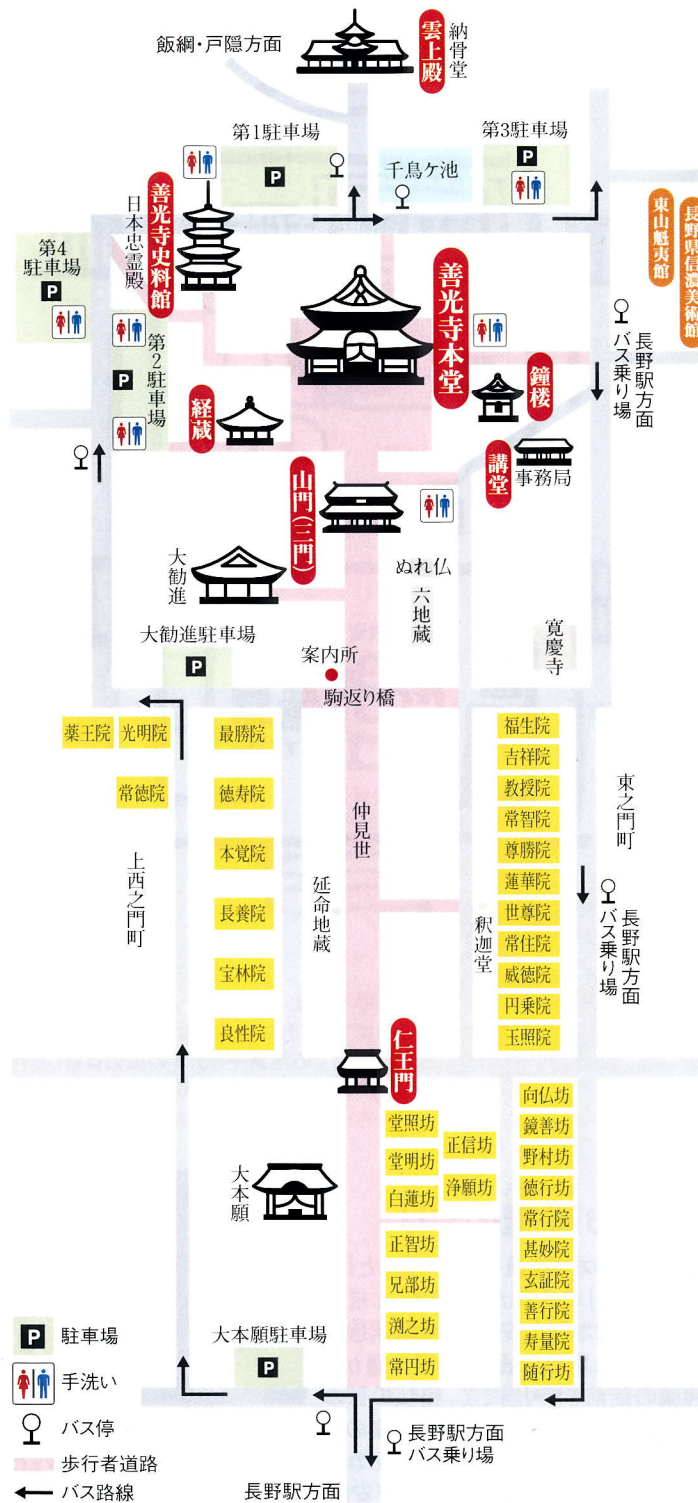
忠霊殿内陣に安置される御本尊は、秘仏となられている**善光寺御本尊の分身仏**です。舟形光背の中に、**阿弥陀如来、観音菩薩、勢至菩薩**がお立ちになる**一光三尊阿弥陀如来**のお姿を間近に拝することができます。

八 鐘楼

本堂の東南にあり、高い石垣の台上に建てられています。嘉永六年(1853)の再建で、柱は南無阿弥陀仏の名号にちなみ六本で、屋根は檜皮葺です。梵鐘は、寛文七年(1667)の鑄造で、高さは1.8m、口径が1.16mあります。



平成十年(1998)の長野オリンピックでは、開会を告げる鐘の音として、全世界に響き渡りました。時を知らせる鐘として長野市民に親しまれ、「日本の音風景百選」にも選ばれています。午前10時から午後4時の毎正時に撞かれます。



善光寺 参拝のしおり

国宝 善光寺本堂

宝永四年(1707)に再建された現在の善光寺本堂は、江戸時代中期を代表する仏教建築として国宝に指定されています。間口24m、高さ30m、奥行き54mという壮大な伽藍は東日本最大で、最奥部にある仏堂の手前に広大な礼堂(らいどう)を繋ぐ棟の形が、鐘を叩く撞木(T字型)に似ていることから「撞木造り(しゅもくづくり)」と呼ばれています。裳階(もこし)を廻らせた二重屋根は総檜皮(ひわだ)葺きとしては日本一の規模を誇っています。

善光寺

〒380-0851
 長野市大字長野元善町491-イ
 電話026-234-3591 FAX026-235-2151
 ホームページ <http://www.zenkoji.jp/>

一 内陣

改札を入り、左手畳敷きの内陣へとお進み下さい。頭上の欄間で燦然と輝くのは**来迎二十五菩薩像**で、手に手に楽器をたずさえ音楽を奏でながら、極楽よりお迎えに来て下さる姿を示しています。よくご覧頂くと、一番左側の区画中央に、誰も乗っていない蓮台があります。善光寺にお参りになった皆さんが極楽へと旅立つときのために用意されたものだといわれています。



その左右には、西国・坂東・秩父の各観音霊場札所の観音像が安置されています。善光寺はこれら霊場の番外札所となっており、満願された方々が御礼に善光寺へ参詣する習わしがあります。内陣右と左の壇上に安置される丈六の大仏は、**地藏菩薩像**と**弥勒菩薩像**（**阿弥陀如来像**）です。

二 御本尊

一光三尊阿弥陀如来

内陣左側の焼香台より内々陣奥を拝すると、金欄のお戸帳が懸かるところが**瑠璃壇(るりだん)**で、秘仏の**御本尊**が安置されています。このお戸帳は法要時には上げられ、御本尊を安置する宮殿(くうでん)を拝することができます。善光寺御本尊の一光三尊阿弥陀如来(いっこうさんぞんあみだによらい)さまは、欽明天皇の十三年に百濟から日本へお渡りになった日本最古の仏像です。御開山本田善光卿によって皇極天皇の元年(642)、当地に祀られましたが、その後絶対の秘仏となりました。善光寺信仰は、日本仏教の根本ともいべきこの御本尊に対する信仰で、そのため、宗派を超えてすべての人々を受け入れることを旨としてまいりました。



瑠璃壇の手前には、御本尊の放たれた光明によって灯された**永代不滅の常燈明(御三灯)**が安置されています。

三 御開山

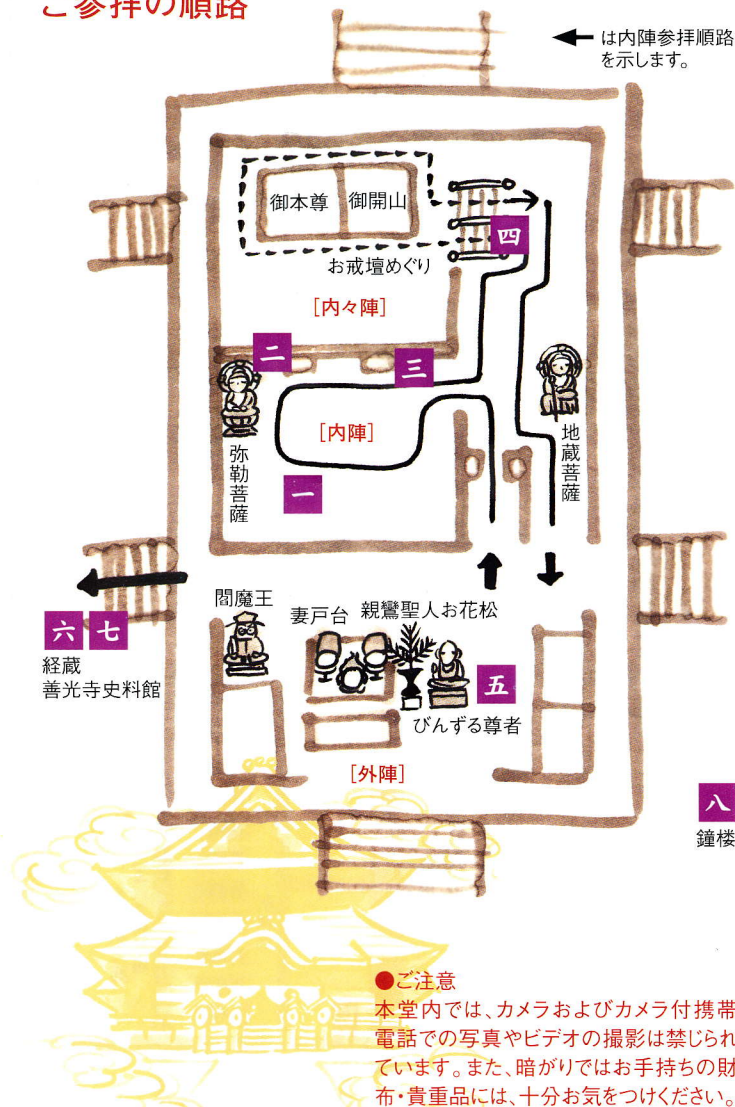
ほんだよしみつきょう 本田善光卿

内陣右側の焼香台より内々陣奥を拝すると、善光寺を開かれた本田善光卿とご家族、奥方の弥生の前、御子息の善佐(よしすけ)をお祀りする**御三卿の間**があります。



善光寺の寺号は、善光卿の名に由来するといわれています。七年に一度の前立本尊御開帳では、御本尊の分身である前立(まえだち)御本尊が、宝庫よりこの御三卿の間左寄りにしつらえられた御仮屋へと遷座されます。

ご参拝の順路



五 外陣

改札の外に広がる板敷の空間が外陣です。外陣中央には、妻戸台と呼ばれる舞台があります。その右側には**びんずる尊者(撫で仏)**が安置されています。びんずる尊者は、お釈迦様の弟子、十六羅漢の一人で、この像に触れることでその神通力にあやかり、病気を治していただくという信仰があります。妻戸台とびんずる尊者の間には**親鸞聖人お花松**があります。鎌倉時代に親鸞聖人が参詣の折、御本尊に松を捧げられたのにちなみ、現在でも生けられているものです。妻戸台左側には、**閻魔王**ならびに**十王像**が安置されています。



賓頭盧(びんずる)尊者

お朝事

善光寺参りの醍醐味を味わうには、毎朝行われるお朝事にぜひご参詣下さい。清新な朝の空気の中、本堂に全山住職の厳かな読経が響きわたり、祈りの聖地として脈々と伝えられてきた善光寺本来の姿にまみえることができます。



お朝事に付随して行われるご回向では、ご参詣になった皆さんの先祖供養や祈願が行われ、内々陣にて法要に参列していただくことができます。お朝事の開始時間は、夏季の最も早い時間が5時30分、冬季の最も遅い時間で7時となります。

※詳しくは、善光寺事務局 [電話 234-3591] にお尋ね下さい。



ご回向(ご供養、ご祈願)のお申し込みは、随時受付しております。

身はここに 心は信濃の善光寺 導きたまへ 弥陀の浄土へ

如来さまのお膝元で、ご供養を通じて先祖さまと心をかよわせ、ひいては生死を超えた広大無辺な大いなる仏さまの、いのちの中に生かさせていただいていることに感謝する。そして、現世における様々な煩惱についての救いを求めていく。それが善光寺詣りの真骨頂です。

※本堂手前の正面授与品所勸募受付と本堂内勤番所で承ります。お気軽にご相談ください。

四 お戒壇めぐり

内々陣の右側を通って奥へ進むと「お戒壇めぐり」の入口があります。お戒壇めぐりは、御本尊の安置される瑠璃壇下の真っ暗な回廊を通り、中程に懸かる**極楽の錠前**を探り当てて、秘仏の御本尊と結縁する道場です。右手で腰の高さの壁を伝ってお進み下さい。お戒壇の入口には、タイ国より贈られた仏舎利(お釈迦様の御遺骨)とお悟りを開かれたお釈迦様の像が安置されています。

